

經濟時評及商況

◎復興局鐵材賣値

復興局が米國に注文した復興材料亞鉛引平浪板及釘全部は三井、三菱、鈴木商店の三社に於て一括買取の交渉は値段の關係上打切りとなり、復興局より直接需要者並びに問屋へ賣却する事となり之迄に契約した數量及値段は

- 一、海難品鑄付十二枚もの原板五百噸濱濱置場渡九十二錢
- 二、正品十二枚もの及び十枚もの原板一千五百噸東京渡し十枚もの九十七錢、一枚もの一圓十錢

にして買手は何れも小規模の鍍金工場にして條件は成約と同時に一割保證金を納入し貨物引換現金拂であるが、亞鉛引板及び釘は買手との値差多く復興局は當分賣焦らない方針であると云ふ。

◎鐵材市況

鐵材、平浪板、鋳力、針金、釘等の如き金物材料界では海外市場依然として強調を保持して居るが、内地市場に於いては在荷の豊富なると需要不振に依つて相變らず低調を示して居る、而して昨今の當地市中相場としては鐵材釘針金鋳力板等先づ保合の姿であるが、平板は一圓十九錢薄板八十八錢見當と二、三錢方の下押を演じて居るが、之が先行については市中在荷の減退せざる限り目先軟調を辿るの外なからうと見られて居る。

金屬管類保合 錫管及鉛管類はその材料たる白金物高のため著しく高直に附くけれども、需要者側の購買力が之に伴はないので水道雜用鉛管一貫目に付一圓五十五錢、錫管普通物十七圓見當に保合ひ眞鍮管及銅管も別段變つたこともないから、前者は百片七十三圓、後者七十二圓五十錢見當。又銅管類はガス用一時四分一及一時二分一と云ふが如し細物は震災後製造が著しく減退した結果品不足となり自然氣配強調なれど未だ相場の上に現はれず、前者一呎に付二圓四十五錢、後者一圓三十一錢見當を唱へて居る、併し該鋼管類は關稅免除打切に伴ふ一般鋼材高と年度替りのため官衙方面の需要を喚起すべき見越の下に先高を豫想して居る模様である。

◎製鐵所先物値段發表

八幡製鐵所は去十八日六月渡しの先物値段を發表した之に依ると丸角鋼百十圓、平鋼百十三圓、山形、工形鋼百十六圓、溝形鋼百二十圓と五月物成約値段と同一である、右に關し大阪筋は値段が幾分高過ぎるとして値下交渉の運動を開始する事に決定した、併し海外における丸並時物が爲替關係から百廿七圓臺にあるが、市中相場は却て金融關係から百十三圓五十錢と逆鞘を示して居るの事實に徴すると發表値段以上に相場を引上げるならば賣れ行き減退し、又賣出し値段を引下れば市況を悪化せしむるの恐れあるため、遂に前回値段と同様にしたものと見るべく、また生産費から採算するも發表値段が一杯の所であるから、大阪筋の運動は徒勞に歸すべく結局必要だけの成約に止まるものと一般に觀測されて居る。

